



© sayaka

野鳥さが

発行者：宮原明幸 編集者：馬場順一 イラスト：中村さやか

日本野鳥の会佐賀県支部



水ものがり館のアオバズクの親子 (撮影：加藤芳隆さん)

野鳥さが218号 主な内容

- 2018年度 支部総会報告-----2ページ
- 役員会報告-----3ページ
- 日本クロツラヘラサギネットワーク参加報告-----4ページ
- 各地の観察会報告 -----5ページ
- 渡りの点と線をつなぐ地域フォーラム-----5ページ
- 皆さんからのおたより-----8ページ
- 最近の新聞・情報誌の記事から-----16ページ
- 近隣地区の観察会情報-----18ページ
- 観察会会場までの案内 -----19ページ
- 観察会などのお知らせ (2018年8月～10月) -----20ページ



2018年度支部総会報告

(副支部長:青柳良子)

【日時】 2018年6月3日

【会場】 佐賀市大和町 石井樋公園「水ものがたり館」

【出席者】 加藤芳隆、中島修、中島由美子、友岡周一、川原直嗣、宮原明幸、河口秀博、宮崎浩二、福田康典、田辺憲子、長岡保、吉澤進、上野武美、永島博、深村徹、野上駿、水田稔、古賀郁香、津山悦子、高木義彦、高木宏子、山崎章弘、古川昌高、久富文江、朝田清子、徳淵義実、田中丸雅雄、山中美由起、馬場清、秀島泉、秀島サカ枝、大川幸子、蒲原留美、江口富美子、中原正義、八木ひとみ、中村さやか、橋本泰博、服部二郎、青柳良子

【報告】

探鳥会に引き続き 10:00 から支部総会を開催しました。 司会は 橋本泰博さん。 支部長：宮原明幸さんの「大勢の出席者がいることへの感謝の気持ちや、自然環境が悪化する状況の中 野鳥たちを護る活動をみんなで盛り上げて行きましょう・・・」という挨拶で始まりました。

議長は服部二郎さんをお願いして議事を進めました。

- 第1号議案：2017年度事業実績及び決算報告 会計監査報告
修正 P3 観察会実施回数の県外3回を4回に。
意見 P8 物資会計の摘要に「カレンダー代」等 説明を記載するといいいのでは？
- 第2号議案：2018年度事業計画（案）及び同予算（案）
意見 P11 「会員拡大の取り組み」・・・入会時1年分会費キャッシュバックに関して、現金が煩わしいのであれば、本とか野鳥観察に役立つものをプレゼントする・・・とかはどうでしょう？（役員会で検討します。）

などと、いくつかのご意見をいただきましたが、全て提案通り承認されました。

第3号議案「役員体制（案）」も提案通り承認されました。

これからも 皆で力を合わせ佐賀県支部のさらなる発展に向け活動して行きましょう
ご協力、よろしくお願いいたします。



(写真提供：馬場清さん)





役員会報告

(報告:蒲原留美)

【日 時】2018年6月24日

【出席者】宮原明幸、青柳良子、馬場清、橋本泰博、田中丸雅雄、中原正義、江口富美子、加藤芳隆、川原直嗣、古賀郁香、蒲原留美

【主な話し合い項目】 (既に終了した案件については割愛したものがありません)

(1) 佐賀県支部創立25周年記念行事の検討・支部運営について

- ① 佐賀県支部創立25周年記念行事開催日を4月20日(土)~21日(日)に決定した。講演会講師に日本野鳥の会・安西英明氏を予定する。場所については、これから検討していく。
- ② 佐賀県支部のホームページを作成中。役員は他支部のHPを閲覧し、佐賀県支部の参考になりそうなものがあれば支部長へ連絡をすること。
- ③ 愛鳥モデル校は、本年度は伊万里市東山代小学校、唐津市加唐島小学校の2校に決定した。
- ④ 10月以降、平日における野鳥観察会も計画していく。
- ⑤ 初めて観察会に参加していただく方に記入をお願いする記入用紙の様式について検討をした。
- ⑥ 観察会の担当リーダーを補助するために、観察会に参加した役員は腕章と名札をすることとした。
- ⑦ 全国野鳥調査における調査担当者は、速やかに調査内容を支部長へ報告をすること。
- ⑧ 九州ブロック大会が9月15日(土)~16日(日)佐世保にて開催が予定されている。参加申込締め切りは一応7月末。事務局 島田洋さんに連絡をすること。

(2) 環境フェスタについて

環境フェスタ出展(10月13日(土)~14日(日))に例年どおり出展をすることとした。

(3) その他、今後の行事予定などについての協議を行った。

また、会員の水田稔さんに、最近録音をされたサンコウチョウの鳴き声を披露いただいた。サンコウチョウの生息場所について情報も提供いただいた。





日本クロツラヘラサギネットワーク参加報告

(事務局:中村さやか)

平成 30 年 7 月 16 日 (月) に山口県立きらら浜自然観察公園で日本クロツラヘラサギネットワーク報告会が開催されました。これは、毎年一回行われている報告会で、日本各地のクロツラヘラサギの調査担当者が集まり、講演、報告がされています。その中で是非、皆様にお知らせしたい情報があり、報告させていただきます。

「きらら浜自然観察公園のクロツラヘラサギ傷病個体の受け入れ施設計画について」

山口県立きらら浜自然観察公園 園長 原田量介

絶滅が心配される希少な鳥、クロツラヘラサギの保護・リハビリ施設が山口市のきらら浜自然観察公園に整備されることになりました。

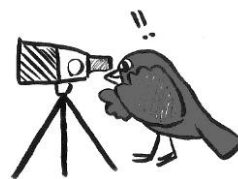
傷がいた鳥を干潟に放し、そのまま繁殖につながることを期待しています。飛べない鳥は自然の環境に近い状態で生活させてやることによって、繁殖する可能性もあります。今は越冬だけですが、一年中、日本でクロツラヘラサギが生活できる状況を期待しています。

保護施設建設にあたり、サントリー世界愛鳥基金から 740 万円の助成を受けていて、施設は7月中には完成する見通しです。

ケガをしている、または弱って動けないクロツラヘラサギを見つけたら、山口県立きらら浜自然観察公園までご連絡ください。 TEL : 0836-66-2030 (月曜日休館)



クロツラヘラサギ保護施設建設予定地





各地の観察会報告

■雄湊・雌湊観察会報告（佐賀市）

【日 時】 平成30年5月27日

【参加者】古川昌高、田辺憲子、水田稔、古賀郁香、吉澤進、永島博、長岡保、福田康典、久富文江、水田利穂、島田洋、高木義彦、高木宏子、橋本泰博、千住利夫、上野武美、加藤芳隆、引地秀司、引地泉、大川幸子、青柳良子（案内役）

【観察された野鳥】カワウ、アオサギ、キジバト、トビ、カッコウ、ホトトギス、ヤマセミ、アカショウビン、カワセミ、コゲラ、キセキレイ、ヒヨドリ、カワガラス、ウグイス、ヤブサメ、ヒガラ、シジュウカラ、ヤマガラ、エナガ、メジロ、ホオジロ、カワラヒワ、ハシブトガラス、ソウシチョウ

【案内役より】

支部としては初めての観察地です。担当の中原正義さんの都合がつかなくなり、替わりに急遽私（青柳）が案内役になりました。

鬱蒼と茂った森の中から聞こえる鳥の声を聞き分ける耳を持たない私は、どなたが参加して下さるかドキドキ・ビクビクでした。が、まさに「案ずるより・・・」

でした。お知らせの支部報が届いてすぐの観察会

でしたから参加者数も少ないかも・・・と心配していましたが、こちら「案ずるより・・・」で、駐車場もいっぱいになりました。



（写真提供：橋本泰博さん）

お目当てのヤマセミ・カワガラスは運のいい人だけが目にすることが出来ただけでしたが、溪流（嘉瀬川上流）の水音を聞きながら、さわやかな青空のもと、気持ちのいいウォーキングでした。川にはスッポンがあちこちで甲羅干ししています。カジカガエルの声、ミヤマカワトンボ、ラミーカミキリ、アカタテハ、ベニシジミ、テングチョウ、イシガケチョウ、ルリシジミなどチョウやトンボ、クモなども島田さんの解説で「へ～！」と感動しながら観察。

橋本さんが「ヤブサメ！ほらこれ！」と教えてくれたのですが、私には??? これも若い(?) 耳のいい人だけにしか確かめることはできませんでした。

最後に「雄湊の滝」を鑑賞し、涼しく気持ちがいいのでそこで鳥合わせ。

橋本さんに記念写真を撮っていただきました。橋本さんの「サイハイランが咲いてる！」との声。珍しい花を観ることもできました。

サイハイラン 「日本の野草・山と渓谷社」で調べてみました。

山地の木陰に生える多年草。昔、戦場で指揮をとるのに使った采配に見立ててつけられた名前。花期は5～6月 とのことでした。

マタタビの葉が白くなっていて目立ちます。花期に枝先の葉が白くなるのだそうです。「ネコを飼ってる人にお土産！」と橋本さんからマタタビのつるをもらって



帰った方もいました。 おうちでネコたちどんな様子だったか聞きたいものです。参加者 21 名、野鳥 24 種。 自然観察もたくさんできて、とても楽しい観察会でした。



サイハイラン (写真提供：水田稔さん) ミヤマカワトンボ

■石井樋公園観察会報告（佐賀市）

【日 時】 平成 30 年 6 月 3 日

【参加者】加藤芳隆、益田ミドリ、中島修、中島由美子、友岡周一、川原直嗣、河口秀博、宮崎浩二、江口勝高、福田康典、野口博、田辺憲子、長岡保、吉澤進、上野武美、永島博、渡辺雅子、水田稔、沢村徹、野上駿、西村佳裕、古賀郁香、津山悦子、高木義彦、高木宏子、山崎章弘、古川昌隆、久富文江、朝田清子、川上武彦、徳淵義実、今泉房枝、田中丸雅雄、山中美由起、岡崎章、馬場清、秀島泉、秀島サカ枝、大川幸子、青柳良子、宮原明幸（案内役）

【観察された野鳥】カワウ、ゴイサギ、コサギ、アオサギ、マガモ、カルガモ、アオバズク、バン、イカルチドリ、カワセミ、コゲラ、ヒバリ、ツバメ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、ウグイス、セッカ、シジュウカラ、ホオジロ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス

【案内役より】

今年もアオバズク来てくれました。いつものムクノキの細枝に、時々五月蠅そうに目を開けますが、ジッと止まっています。 皆さん受付もそこそこで釘付けです。

担当の青柳さん、お怪我で痛々しいおすがた。

出席を取って頂いた後は私が引き継いでのバードウォッチングでした。

鳥達は、繁殖真っ盛り。餌を啜えたホオジロやシジュウカラの巣立ち雛も観察出来ました。

バードウォッチングに引き続き 10 時より支部総会の開催となりました。



(写真提供：馬場清さん)

■東よか干潟（大授搦）観察会報告（佐賀市）

【日 時】 平成 30 年 6 月 17 日

【参加者】水田稔、高山英一、福田康典、吉澤進、内田英丸、橋本泰博、甲木弘美、古川昌高、徳淵義実、進藤直文、朝田清子、高木義彦、高木宏子、津山悦子、蒲原留美、渡辺雅子、江口富美子、大川幸子、田中丸雅雄（案内役）

【観察された野鳥】カワウ、アオサギ、ダイサギ、クロツラヘラサギ 12、シロチドリ

*4、メダイチドリ*9、オオメダイチドリ*3、ダイゼン*30、ハマシギ*3、サル
ハマシギ*1、オバシギ*4、ソリハシシギ*1、オグロシギ*2、ダイシャクシギ 12、
ホウロクシギ*3、ヒバリ、ツバメ、スズメ、ホオジロ

【案内役より】

梅雨入りしたが、快晴の真夏日となり、朝から暑い。 シギ・チドリたちは繁殖地
に向かい、干潟には幼鳥や遅い渡りの個体が少し残る。 堤防を降りると、水際に
ダイシャクシギの群れ、ホウロクシギ3羽も混ざる。

西へ移動すると、赤い夏羽のサルハマシギ1羽。 夏羽のオグロシギも2羽。

西の方からクロツラヘラサギの若鳥 12羽も飛来。 鳥は少ないが、採餌の様子を
じっくりと観察できました。 暑さのため、早めに鳥合わせをして終了。

■鳥取探鳥ツアー報告

【日 時】 平成30年6月15日～17日

【探鳥地】 広島県総領町、鳥取県『八東ふるさとの森』、岡山県『岡山県立森林公園』、
岡山県吉備中央町

【参加者】 加藤芳隆、川原直嗣、古賀あやか、竹田澄子、新田直哉、丹羽昭一、馬場清、
原秀親、脇田雅江、宮原明幸（案内役）

【観察された野鳥】 カルガモ、キジバト、アオバト、カワウ、アオサギ、ダイサギ、
ジュウイチ、ホトトギス、ツツドリ、カッコウ、ハチクマ、トビ、ノスリ、オオ
コノハズク、コノハズク、アオバズク、アカショウビン、カワセミ、ブッポウソウ、
コゲラ、オオアカゲラ、アオゲラ、サンコウチョウ、カケス、ハシブトガラス、
ヤマガラ、シジュウカラ、ツバメ、コシアカツバメ、イワツバメ、ヒヨドリ、ウグ
イス、ヤブサメ、メジロ、ゴジュウカラ、ミソサザイ、カワガラス、キビタキ、
オオルリ、スズメ、キセキレイ、セグロセキレイ、カワラヒワ、ホオジロ



上段右：オオコノハズク

下 段：ブッポウソウ

写真提供：上段中は馬場清さん
その他は加藤芳隆さん

※コメントは長文のため「皆さんからのお便り」のページに掲載しています。



皆さんからのおたより



●「東京の野鳥」・・・橋間 みち子さん（小城市）

私は娘の産看病で4月から6月、東京都世田谷区に滞在しておりました。

東京都は植物を大切に育てる町でした。名も知らない珍しい木々がありました。一戸建ての家には少しの土地があれば何かを植えてあり、バラの花がきれいな季節でした。植木屋さんが忙しく働いておられました。

ある日、マンションの庭の木に直径5cmの入口がある鳥の巣箱を見つけました。

1階に住む中学1年生の男の子が取り付けていました。ヒナの鳴き声を孫と近付いて聞いていたらヒナの一羽が巣から落ちました。うずくまっています。マンションの子供たちが寄ってきて「どうしよう」「どうしよう」と大事件になりました。

スマホでヒナを助ける方法を調べたお母さんが、ナイロンの手袋をしてヒナを巣に戻し、一件落着。その夜の孫の話はヒナのことばかりでした。「親鳥が緑色の虫を口にくわえて飛び回っていました」と、話が盛り上がりました。

私の住んでいるマンション3階から周りをよく見ると、前の銭湯の煙突の上から4段目の所にカラスが巣をつくり、ヒナが何羽かいました。私の室はなわばりの内でした。あと、ヒヨドリ、ハトなどなど。双眼鏡を持っていなかったなので、はっきりと名前が言えません。マンションの敷地内の木々にはアシナガバチ。地べたには大きなアリ。成城の地域は3階建て以上のマンションは建てないように決まっていました。

3か月いた内で、富士山が台所から4回はっきり見えました。4月はまだ白い雪化粧の富士でした。

野川の川辺にはカワセミが2羽いて、すごいカメラを持ったおじさんたちが3人、写真を撮っていました。

京王線の各駅には高い声の野鳥？の鳴き声を流していました。また、小田急小田原線にも何かの野鳥の鳴き声を流しているとのことでしたが、気づきませんでした。

日曜日には多摩川に自転車で行き、リフレッシュに努めました。

東京23区は私にとって生きづらい町でありました。町行く人はスマホを見ながら歩くと、自転車の運転マナーは悪く、何かを食べながら一時停止もせず、右から左から前から後ろからすごいスピードで走ってきます。よく事故が起きないなと感心しました。

子どもを自転車の前後に乗せ狭い道でも走ります。スマホを耳にはさんで話しながら子供を乗せた自転車のママさんには、びっくりしてしまいました。

私は事故を起こしてもいけないし、事故に遭ってもいけないし、ストレスがたまりました。そこで日曜日には多摩川に行きました。河口から23kmの所で、多摩川の左岸になります。貸しボートがあり、3代目の江戸っ子が営んでいて、言葉づかいが好きでした。

都会の生活に疲れたおじさん達が毎回集まってきました。弁当やビールやビールのつまみ、パンくずなどを持ってやって来ます。



野鳥はハト？ すずめ、アオサギ、ムクドリがいました。パンくずを食べにやって来ます。集まってくるおじさん達の言葉もいろいろです。

東北弁のおじさんは 16 歳の時に同じ地域の人々とまとまって東京に来たので、東北弁が直せなかったと。東京の人はよく政治の話をしました。

新宿駅の近くの角に、黒くて大きなきれいなカラスが 2 羽、通りがかった人におそいかかってくるのにはびっくりしました。

今度生まれた孫の頭のとっぺんの髪の毛を見て、「ヒヨドリのリーゼントに似てるね」「横の髪の毛はツバメに毛のように黒くてしっとりしてるね」というと、

「私たちは野鳥に関心がないから鳥にたとえないで！！」 娘に言われました。

残念です。

●山澤 健一さん（茨城県神栖市）

①「普通動物図譜の鳥たち 第 8 回」

今回は留鳥として本州中部以南の島などにいるカラスバト、南西諸島などに留鳥として分布するキンバト、海水を飲みに来るアオバトです。この図譜の解説欄にはカラスバトは、一名ウシバトともいう、アオバトは一名シャクハチバトともいう、とあります。

カラスバトの謂われは書いてありませんが、アオバトは「鳴く時の恰好が尺八を吹くに似たり」とあり、このことが謂われのようです。特徴である海水を飲みに来ることには触れていないので、その当時はこのことを把握してなかったのかも知れません。



からすばと



きんばと あをばと

②「この時期の鳥たち 2018 その 2」

昨年この時期は地元でゆっくりとホトトギスでもと思い、声を頼りに地元神栖市、「潮来花嫁さん」の潮来市をメインに駆けずりましましたが、声はすれども姿は見えずどおりでした。3ヶ月を費やし、このためこの時期の鳥たちを見る事が出来なかったが、今年は4月初旬にコウノトリが2羽同時に飛来した。その後姿は見なかったが、5月の中旬、スマホで撮ったよと教えてもらい現地に行ったところ、コウノトリはいなかったがホトトギスの初鳴きを聞いた。付近を探すと、枯れた杉の木のとっぺんで鳴いているホトトギスを見つけた。このソングポストには1時間に4回ほど、別個体と思われる

ホトトギスが入り、私は見ていないが赤色型も入ったし、カワラヒワ、シジューカラ、ヒナへの餌運び中のコゲラなどが入った。この近くではカッコウやツツドリの声も聞いた。

昨年と違いこの時期に余裕が出来たため、観察目標にヒクイナとタマシギを加えて現在探し中で、ヒクイナは7/12に撮影しましたが、タマシギは稲刈り待ちで撮影したいと思っています。



コウノトリ



ホトトギス



ヒクイナ

●「鳥取探鳥ツアー報告（支部観察会）」・・・宮原 明幸さん（佐賀市）

15日23時、水ものがたり館駐車場で拾ってもらって出発です。

既に竹田さん・原さん・丹羽さんは乗車されています。加藤さん今回も参加者全員を拾いながらの行程です。

福岡で新田さん、広島の脇田さんを乗せて総領町へ、夜通しの運転です。

総領町では、ブッポウソウを守る会の会長の山坂さんに案内をお願いしてあるとのこと、道の駅リストア・ステーションで待ち合わせです。

待ち時間に早速周辺探鳥、里山の道の駅 道路を挟んで前は山、裏は川が流れています。

飛び回っているのはツバメ・コシアカツバメ・イワツバメ、川にはカワガラス、キセキレイにカワセミ、前の山からは「キョーウ♪キョーウ♪」アオゲラが鳴きます。

此処もブッポウソウのポイントと散歩の方が教えて下さいますが???気配なし。

8時、山坂会長が見え軽トラックの後に着いて行きます。

総領町の其処此処の電柱に巣箱が掛けてあります。

山に迫った田圃の中の電柱が巣掛けの定番。突然トラックを止められます。巣箱の脇にブッポウソウ♪ 遠いからでしょうか? また移動。

別の巣箱へ。此処にも居ましたが直ぐに飛びます。見えない範囲ではないのですが・・・近くで見られる場所へと気遣われ移動、ご自宅の納屋へ。

納屋の前は水田、その先の「そば粉挽き小屋」横に巣箱が掛けてあり其処でも営巣中との案内 「ゲェゲェゲゲ♪」ブッポウソウ2羽が飛び交います。

水田の上には羽虫がうじゃうじゃ舞っています。横の小川にはハヤが泳ぎモリアオガエルの卵塊も見えます。側の山ではキビタキの朗らかな歌声。

「ツキヒホシ・ホイ・ホイ・ホイ♪」サンコウチョウも鳴き出します。遠くでホトトギス。此処には日本の原風景が、残っていました。

9時、お世話になった総領町へのお礼に道の駅で買い物をして、鳥取へ向かいます。津山インターを下り、さらに奥へ。

途中、食堂を見付けました。 まだ 11 時ですが、朝食は脇田さんの差し入れのオニギリ 2 個、小腹も空いています。 去年は、探せなかった「モツうどん（津山の B 級グルメ）」のお店へ。 汚ったないお店でしたが、鉄板で焼きながら食べるお料理は絶品でした！ 昨年同様、最寄りのスーパーで晩飯と酒を買い込み「八東ふるさとの森」へ。 今回はふるさとの森に行く前に温泉へ立ち寄る予定でしたので八頭町「鍛冶屋温泉」へ。 意外と森に近く、オオコノハズクを観た後に来ようとスルー。 ふるさとの森に向かいます。 昨年、養蜂箱の有った処に大きなレンズのカメラマンが 2 人、なんでしょう？ 車を寄せます。 杉の天辺にハチクマが止まっていたが、直ぐに飛び去ります。

ふるさとの森入口ではキセキレイのお迎え♪ 手続きに行かれた加藤さんの情報では、『アカショウビンは昨年と同じ木で抱卵中 4 時間待ち。 オオコノハズク一巢はバーベキューハウス横で抱卵中、後の一巢は雛が居るから見られるだろう？』とのこと。 バンガローに荷物を降ろし、そそくさと雛の居る巣箱へと向かいます・・・テントが張られ、前にはスポットライトと綱張り・・・いかにもといった！ 既に 5 人の方が席取りされています。 オオコノハズクが動き出すのは 18 時半頃からで、ライトアップは 18 時だそうで、1 人去り 2 人去り誰も居なくなりました。 皆さん、アカショウビンで粘られているようです？ 私も昨夜は睡眠 1 時間、キビタキ・アカショウビン・ツツドリの声が遠く近く 夢か現か、舟をこいでしまいました。 ライト点灯時間前頃より三々五々皆さん集まれ 20 人程に。 館長が直々に点灯に見えました。

点灯後はカメラマンへの采配が、『貴方は此処！ 倍率は？それなら其処！ ホワイトバランスがどうたらこうたら・・・18 時半になったらオオコノハズクが来るから、其処の枝に止まるから此方は枝被り、その枝に来たら長く居る！ 双眼鏡で見るより裸眼が良い、等々』 講釈一段落 6 時半・・・オオコノハズク来ません。

館長、『オオコノハズクが来たら、飯食べに戻る！』と言われていますが、来ません。 痺を切らしてか？ 大見得を切った手前か？ 館長が消えます！ 入れ代るように来ましたオオコノハズク、巣箱横の枝に止まりすぐ巣箱へ。 巣箱へ餌を投げ込み即飛び去ります。 だいたい 15 分間隔で♀交替で？ 餌を持って来ます。 大きなオオミズアオ（薄緑色の蛾）を持って来た時は暫く枝に止って巣箱へ。 雛には大きいのでしょよう翅をむしって与えました。 目は橙色、胸は褐色・灰色・黒色の複雑で細かい斑、耳羽はねかせています。 カシャカシャカシャカシャカシャ『可愛いっ！』竹田さんより声が上がります。 私達の餌は未だおあずけ、後ろ髪引かれる思いでバンガローへ戻ります。 今回も晩飯はスーパーで仕入れた惣菜・インスタント食品にアルコール。

『オオコノハズクに乾杯！』 私も、黒ビールで参戦一発ダウン！ 誰かの目覚ましアラーム、午前 4 時です・・・沢の音に混じってコノハズク、アカショウビン、カジカの声も聞こえています。

さすがにキツイ『このまま寝ていたい！』『アカショウビンが見たい！』 葛藤です。 アカショウビンが勝ちました。

皆さんもお疲れの様子、こっそり着替えて出掛けましょう。

オオルリが歌っています、昨晚のオオコノハズクの巣箱はひっそり。 アカショウビンの

洞の前にはカメラマンが3人、大きなレンズを据えて陣取っていらっしやる。

アカショウビンは未だ、顔を出さないとのこと。

間もなく皆さん起き出して見えました、ご老体に鞭打って！

『フィフィ♪』ゴジュウカラが近くで鳴きます。『ツウンピ・ツウンピ♪』カラの声『ジュウイチー・ジュウイチー・ジュウチー♪』遠くに聞こえています。

アカショウビンは、お寝坊でした。

朝食済ませたら、直ぐに出発『岡山県立森林公園』の森へ。

この時期、鳥は期待出来ませんが、此処の森が好きで立ち寄って帰ります。

中国山地の道を走ります。山の端を猛禽が舞っています『翼幅は広い！』車を停めて確認、トビでした。またまた猛禽！今度は遠い『翼の先に白い班が有る！』『えっ？白い班？イヌワシ幼鳥？』私の双眼鏡、先の見島で光軸ずらして今日のはおんぼろピンチヒッター、色が出ません。

※ 後日、丹羽さん撮影の画像を拡大して確認しました・・・ノスリでした。

岡山県立森林公園へ。やっぱり鳥は駄目ですがカラマツ・ブナ・ミズナラ・カエデの森には、今が真っ盛りのヤマボウシ・ヤマウツギの花、アマドコロ・ヤマアジサイの花も残っています。オタカラコウの自生地までゆっくり森林浴を楽しみ、帰路へ。

院庄の町でお昼です（お昼も「ホルモンうどん」昨日の汚い店が美味でした。ただ、女将さん、北九州の出身だそうで、お見送りのサービスが有りました。）

『吉備中央町、ここからどれくらいですかネ？ナビで検索して見て下さい』と加藤さん、検索します『ここからだ、50分程度です。』？どこかで聞いたフレーズ、26年の岡山森林公園の探鳥行の時も同じ会話があったような・・・

吉備中央町へ向かいます。4年前のブッポウソウのポイントはすっかり忘れまして。

吉備中央町役場にナビを設定します。

車が止まり、遠くに加藤さんの声？『巣箱の横の電線に止まっています。』寝てました。電線のブッポウソウは飛び去りました。

役場へ。今日は日曜日で人っ子一人いません。近くのスタンドでブッポウソウの巣箱設置の場所を尋ねます。親切に教えて頂きましたが土地不案内で良く分かりませんが川沿いに設置してあるとのこと、宇甘川（うかいがわ）沿いに走ります。

果して、巣箱が有りました。

探し当てる度にチェック、箱からブッポウソウが顔だけ出しています、暫く観察し先へ。巣箱が有れば確認、なかなか進みません。

「道の駅かもがわ円城交流促進センター」に着きました。

ここで情報収集。原さんがポイント『横山様』の場所を聞き出して来られました。

『よこやまさま』思い出しました。4年前に行きました。ブッポウソウのライブ画像の見られる地蔵尊です。道を尋ね尋ね『横山様』へ

“腰痛にご利益があるというお地蔵様”へ、先ずはお参り。

ライブカメラは故障？ブッポウソウも見当たりません。記録簿には6月2日より抱卵開始と書いてあります、抱卵中なのでしょう？

ヤマガラが餌を銜えてチョロチョロ、ヤブサメも『?????♪』鳴いているそう！？

時刻は 16 時・・・時間を忘れて遊び呆けました・・・帰路に着かねば。

広島廿日市経由です。 広島で晩御飯に美味しい『広島風お好み焼き』を頂き、脇田さんとお別れ九州へ。 福岡経由で水ものがたり館駐車場に着いた時は日付けが変わっていました。 それから、皆さんそれぞれの家へ・・・疲れしました。

●「志田焼に描かれた鳥たち 第1回」・・・馬場 清さん（嬉野市）

我が町、嬉野市塩田町の古い陶磁器「志田焼」を紹介します。

「志田焼」は塩田町久間地区で江戸時代後半・幕末期に長崎街道を左右に分れた、鍋島本藩領の東山区、蓮池支藩領の西山区で染付の大皿（絵文様）等、膨大な数量が生産されました。 戦後数年後まで焼かれていました。

以前、この「志田焼」は芸州（広島県）江波焼の作品と誤認され、全国に紹介されていましたが、塩田の文献や窯跡、陶片の調査により現在は陶磁器関係者、古陶磁器収集家、骨董屋さんも「志田焼」だと認められております。

今回は「志田焼」に鳥類を描かれた大皿だけを紹介します。が、他の動物、植物、縁起物なども沢山描かれております。今後は数点ずつ分けて紹介して行きたいと思います。

現在は廃業された、当時の工場跡（生産一貫行程全て）が

「志田焼の里博物館」（0954-66-4640）として見学できます。 現物見学は嬉野市歴史民俗資料館（0954-66-9130）へ事前に電話にて問い合わせ下さい。



そめつけわかまつはくつるもんざら
染付若松白鶴文皿



そめつけまつとりもんざら
染付松鳥文皿



そめつけひょうれつおうぎがたばいおうもんざら
染付氷裂扇形梅鶯文皿



そめつけでんえんしらさぎもんざら
染付田園白鷺文皿



そめつけまつなみそうかくもんざら
染付松波双鶴文皿



そめつけひのであしかりもんざら
染付日の出芦雁文皿

（資料提供：嬉野市歴史民俗資料館

写真撮影：馬場清さん）

●「巣箱にやってきたシジュウカラと、悲劇の結末」

・・・佐久間 仁さん（唐津市）

土日祝日が仕事のため、支部探鳥会にもなかなか参加できず、申し訳ありません。そんなわけで、せめて自宅で野鳥観察ができればと、昨年に続けて庭に取り付けた巣箱。今年は4月に、ベランダの木製支柱にシュロ縄で取り付けたのですが、5月31日、シジュウカラ♂が巣箱近くで大きな声を上げているのに気づきました。

巣箱から約7m離れた場所から観察すると、無言の♀が巣材を啜え、巣箱に入ったり出たり…。♀が巣の中に入っている間、巣箱から2mほどの場所で鳴き続ける♂。♀が巣から出てくると♂も一緒に飛び去る姿に、「もしかしたら…？」と期待が。しかし、その後もシジュウカラの声は日に数回しか聞こえず、巣を訪問する回数は伸びません。カササギが二つ三つ、同時に巣を作るように、我が家の巣箱はあくまでもシジュウカラ夫婦にとって、スペアの巣だったのかな？。

ところが仕事が休みの6月11日。早朝からシジュウカラが庭で頻繁に鳴いていることに気づきました。数えただけでも♂来訪が二十回余り。「繁殖期終盤になって、本格的に繁殖行動に入ったらしい！」と内心喜んで、ほぼ一日、様子をメモしてみました。

●6/11 早朝～09:37 少なくとも三回飛来。

- 09:38 ♂飛来。巣箱近くの横棒にとまって周囲を警戒。「ツピ°-ツピ°-」を繰り返す。
- 09:39 ♂が巣箱に乗り移り、「ツツツ」と小さく囁きながら隙間から中を覗き、正面の穴から箱に入る。五秒もたたずに♂が出てきて飛去。
- 09:47 ♂飛来。約一分間、巣箱横で「ツピ°-ツピ°-」を繰り返し、巣箱の中へ。
- 09:55 ♂飛来。09:47に同じ。なお、この時は「ツパ°ッ、ツパ°ッ…」の声。嘴に何か啜えているものの、餌の虫なのか巣材なのかはつきりせず。
- 10:13 ♂飛来。09:47に同じ。
- 10:19 ♂飛来。09:47に同じ。「ツツッ、ツツッ」を繰り返す。
- 10:27 ♂飛来。09:47に同じ。「ツツッ、ツツッ」という警戒？の声を繰り返す。
- 11:19 ♂飛来。09:47に同じ。虫を啜えているのを確認。声は「ツピ°-ツピ°-」。
- 12:00 ♂飛来。09:47に同じ。「ツツ、ツピ°-ツピ°-」を繰り返す。
- 12:57 ♂飛来。09:47に同じ。
- 13:06 ♂飛来。09:47に同じ。「ツツッ、ツツッ」を繰り返す。
- 13:09 ♂飛来。無言で巣に。♀と抱卵を交代したのか？。
- 15:56 ♂飛来。口に虫を啜え、「ツツッ、ツツッ…」を約一分間繰り返し、巣の中へ。
- 16:07 ♂飛来。「ツピ°-ツピ°-」を繰り返して巣の中へ。
- 16:35 ♂飛来。「ツツッ、ツツッ…」を約一分間繰り返し、巣の中へ。

●6/12 05:10 ♂飛来。「ツツッ」と二声出して巣穴に近づくも、入り口でホバリングしたまま、巣内に入ろうとしない。その後、「ツツ、ツピ°-ツピ°-」を数回繰り返し、6分間の間に何度も巣穴前でホバリングした末、飛去。何か様子がおかしく、異常事態が発生した様子。

05:29 ♂飛来。 「ツツヨ、ツツヨ」と繰り返し、巣穴前でホバリングするも巢に入らず飛去。

06:49 ♂飛来。 05:29 に同じ。

以降、♂の声が遠くなり、明らかに様子がおかしいため、翌 13 日午後、巣箱を下ろして開けてみると、何と中にとぐろを巻いたアオダイショウが！【写真参照】
巣箱の中には苔や犬の毛を使って綺麗な巣が作られており、木製の支柱を伝って侵入してきたアオダイショウに、抱卵中のシジュウカラ♀は逃げる間もなく、襲われたものと思われます。自然界の掟とは思ふものの、シジュウカラ♀には気の毒な結果に。
今後は、簡単に蛇が昇れない場所に、改めて巣箱を取り付けようと思います。
※ただし、実家庭には今回のアオダイショウの他、シマヘビ、ジムグリがいて、野鳥にとっては厳しい環境なのかもしれません。

《観察を通じて気づいた点》

- ① 巣は♀のみで作っており、♂は巣材を採集に行く♀に同行する行動のみで、巢に入って巣作りに直接関わった様子は見られなかった。
- ② 5/31～6/12 の間、♀は無言のまま、記憶する限り、鳴き声は全て♂のものであった。
- ③ 「ツツ、ツツ」という声は、♂から巢内の♀に呼びかける声だった。
- ④ ♀は、餌などを啜えていても各種の声を発することができた。(終わり)

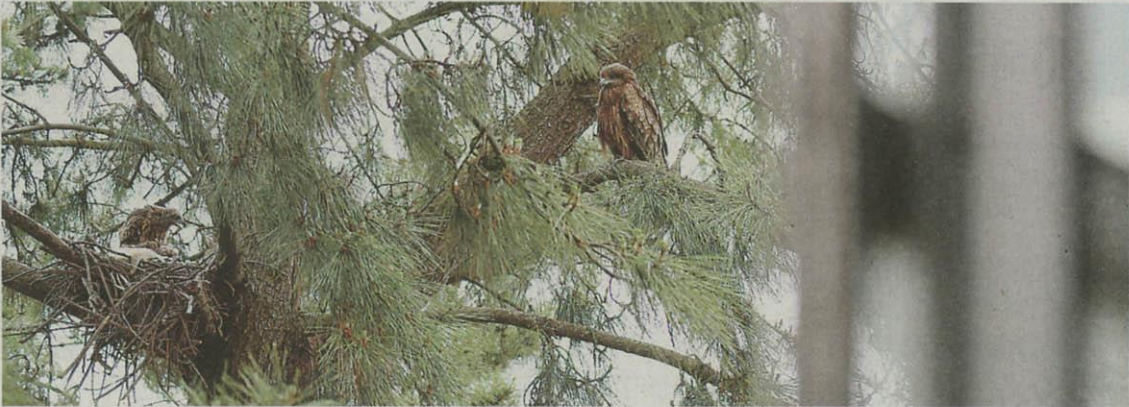


《苔と犬の毛で作られたシジュウカラの巣と巣箱内でとぐろを巻くアオダイショウ》





旧大成小の建物の窓からトビの子育てを観察。すくすくと育つ幼鳥（左）とそばで見守る親鳥＝唐津市富士見町



不登校支援教室 トビ営巣、校舎から見守る

「力強く羽ばたいて」

唐津市

唐津市富士見町の旧大成小の校舎裏で、トビの幼鳥が巣立とうとしている。毎年同じ場所に営巣しており、校舎を利用して不登校児支援教室の子どもたちや職員が見守っている。

松の木に作られた巣から、2羽のあどけない顔がのぞいている。既に羽は茶色に生え替わり、飛ぶ練習のように翼を羽ばたかせるしぐさを見せていた。

教室の福谷浩孝室長（64）によると、少なくとも3年前からつがいを見るようになったという。毎年4月中旬に現れ、5月末ごろに巣立っていく。みんなの人気者で、3階の窓から職員や子どもたちがよく子育ての様子を観察している。

不登校の児童生徒が学校に戻れるよう支援する教室は、



巣の上で、じゃれ合うトビの幼鳥＝唐津市富士見町（旧大成小から撮影）

電子新聞に
動画



（藤本拓希）

（18/5/26 付け：佐賀新聞）



愛鳥週間 野生生物保護たたえ

愛鳥週間（5月10～16日）に合わせて、環境省と日本鳥類保護連盟が行っている「野生生物保護功労者」に、県内から2人が選ばれた。トンボや淡水魚の調査研究と保全活動に尽力してきた中原正登さん(56)＝高志館高校教諭、佐賀市＝が県内初となる「環境大臣賞」を受賞。愛鳥モデル校への観察会など市民を対とした自然環境の啓発活動に取り組んでいる日本野鳥の会佐賀県支部副支部長の青柳良子さん(74)＝小城市＝が、県内在住者で7年ぶりの「日本鳥類保護連盟会長褒状」を受けた。

野生生物保護功労者 伝達式



日本鳥類保護連盟会長褒状を受けた青柳良子さん。左は日本野鳥の会佐賀県支部の宮原明幸支部長、右は御厨秀樹県農林水産部長＝佐賀県庁

青柳良子さん(74)小城市

野鳥や傷病鳥を保護

このほど県庁で行われたと、日本野鳥の会佐賀県支部の会長褒状伝達式。青柳良子さんは「褒状をいただけるなんて。驚いていながら自然に親しめるような環境づくりに尽力した。市間、当時住んでいた八丈島民を対象に、小城公園や右のどセンターでボラ井樋公園で探鳥会のリーダーとして、島に生息する鳥でツグミの仲間の「これかも佐賀の素晴らしい自然を守っていき動に携わった。元々自然が好きで、野草などについて調べていたが、島でドウォッチングを経験したことがきっかけだった」という。

2000年から約5年、環境づくりに尽力した。市間、当時住んでいた八丈島民を対象に、小城公園や右のどセンターでボラ井樋公園で探鳥会のリーダーとして、島に生息する鳥でツグミの仲間の「これかも佐賀の素晴らしい自然を守っていき動に携わった。元々自然が好きで、野草などについて調べていたが、島でドウォッチングを経験したことがきっかけだった」という。

04年、佐賀県に移住する

(松田美紀)

県内初の「環境大臣賞」

中原正登さん(56)佐賀市



環境大臣賞の表彰状と盾を受けた高志館高校教諭の中原正登さん＝佐賀市の同校

トンボ、淡水魚調査に尽力

県内のトンボや淡水魚などの調査研究や保全活動に尽力してきた。市民に自然や生き物を大切に思う気持ちを育んでもらおうと「トンボ教室」を開くほか、高校教諭や大学教員らと1993年には「佐賀自然史研究会」を設立し、研究を重ね論文も取りまとめた。

幼い頃から昆虫や魚が好きで、トンボや淡水魚の調査研究や保全活動に尽力してきた。市民に自然や生き物を大切に思う気持ちを育んでもらおうと「トンボ教室」を開くほか、高校教諭や大学教員らと1993年には「佐賀自然史研究会」を設立し、研究を重ね論文も取りまとめた。

幼い頃から昆虫や魚が好きで、トンボや淡水魚の調査研究や保全活動に尽力してきた。市民に自然や生き物を大切に思う気持ちを育んでもらおうと「トンボ教室」を開くほか、高校教諭や大学教員らと1993年には「佐賀自然史研究会」を設立し、研究を重ね論文も取りまとめた。

幼い頃から昆虫や魚が好きで、トンボや淡水魚の調査研究や保全活動に尽力してきた。市民に自然や生き物を大切に思う気持ちを育んでもらおうと「トンボ教室」を開くほか、高校教諭や大学教員らと1993年には「佐賀自然史研究会」を設立し、研究を重ね論文も取りまとめた。

(中島信子)





近隣地区の観察会情報

日本野鳥の会本部HPにも最新の探鳥会情報
がありますよ！ → <http://www.wbsj.org/>

■日本野鳥の会 福岡支部 (参加費：会員 100 円 一般 300 円 中学生以下無料)

日時：8月5日(日)、9月2日(日) 8:00~11:00 (定例探鳥会) 集合時間にご注意を！

場所：福岡市・今津、雨天中止 / 集合：玄洋高校北西の端道路

日時：8月7日(火)、9月4日(火) 10:00~ (定例探鳥会) 集合時間にご注意を！

場所：春日市・春日公園、雨天中止 / 集合：10:00 旧公園管理センター前 (第5駐車場横)

日時：8月11日(土)、9月8日(土) 9:00~12:00 (定例探鳥会)

場所：福岡市・大濠公園、雨天中止 / 集合：9:00 公園ボート乗り場前

日時：8月12日(日)、9月9日(日) 9:00~12:00 (定例探鳥会)

場所：福岡市・和白海岸、雨天中止 / 集合：9:00 JR 和白駅前の和白公園

日時：8月19日(日)、9月16日(日) 8:00~11:00 (定例探鳥会) 集合時間にご注意を！

場所：筑紫野市・天拝山、雨天中止 / 集合：天拝山歴史自然公園水上ステージ横

日時：8月26日(日) 8:00~、9月23日(日) 9:00~ (定例探鳥会) 集合時間にご注意を！

場所：福津市・久末ダム、雨天中止 / 集合：久末ダムの多目的広場横の駐車場

■日本野鳥の会 筑後支部 (参加費：会員 100 円 一般 200 円 高校生 100 円 中学生以下無料)

※8月の観察会はお休みします。 9月からの観察会にご期待を！

探鳥日記
中村 さやか

2018年7月
イソヒヨドリ
鹿島市

近年、都市部でも観察

名前はイソヒヨドリですが、ヒヨドリ科ではなくヒタキ科の鳥です。オスは青と赤褐色がとてもきれいで、美しい声でさえずります。

元々は海の近くにいる鳥ですが、近年は海からだいぶ離れた都市部で観察されることが多くなってきました。佐賀県内では、陶器市開催中に有田町で見たこともあります。

イラストを描くときに参考に使った写真は、鹿島市役所の敷地内で撮影しました。意外に身近な場所にいるので探してみてください。

(日本野鳥の会佐賀県支部事務局長)



(18/7/20付け：
佐賀新聞)
事務局・中村さやかさん
が連載中の「探鳥日記」
(月1回、最終金曜日)

～野鳥さが原稿募集中～

①詩歌・句・イラスト募集！ 皆様の作品をお待ちしています。気軽にご参加ください。

②投稿・ご意見などをお寄せください。(編集部：馬場順一)

〒841-0053 鳥栖市布津原町 61 A12-11 携帯：090-5084-2649

(Eメール) f_baba841@ybb.ne.jp





観察会などのご案内 (2018年8月～10月)

①8月18日(土)スライド学習会

[時間&場所] 10:00

佐賀市大和町 石井樋公園「水ものがたり館」

[担当] 宮原 明幸さん(佐賀市) 090-2507-7085

橋本 泰博さん(みやき町) 090-8833-6130

[内容] 青柳さん夫妻のコスタリカ探鳥旅行の野鳥写真、橋本さんの台湾探鳥行の野鳥写真など。
また、種類の同定できなかった鳥について、参加者で検討。鳥に関する質問の受付など。

②8月26日(日) ④9月9日(日)

東よか干潟(大授瀬)観察会(佐賀市)

[時間&場所] (8/26)8:00 (9/9)9:00

佐賀市東与賀町の東よか干潟展望台

[担当] 田中丸 雅雄さん(佐賀市)080-1707-9225

加藤 芳隆さん(上峰町) 090-4510-1560

[見どころ] シギ・チドリたちの秋の渡りのシーズンとなります。

③8月26日(日) ⑤9月16日(日)

ツバメのめぐら観察会(佐賀市)

[時間&場所] 17:30 有明海漁協・大詫間支所

駐車場(早津江川の川副大橋を渡り終わって
すぐ急角度に左折したところ)

[担当] 永島 博さん(佐賀市) 090-1360-8940

宮原明幸さん(佐賀市) 090-2507-7085

[見どころ] 春から夏にかけて巣立ったツバメの若鳥
たちが集団で休む川辺のアシ原を観察します。

⑥9月24日(祝・月)

鏡山・ハチクマの渡り観察会(唐津市)

[時間&場所] 08:00 唐津市鏡山の山頂駐車場

[担当] 宮原 明幸さん(佐賀市) 090-2507-7085

[見どころ] 渡りのピークを迎えたハチクマ&ハイタカ、
アカハラダカ、オオタカなど猛禽類。
穏やかな天気になりますように。

⑦10月13日(土)～14日(日) 環境フェスティバル in 森林公園

※詳しくは次号の支部報に掲載します。

共通事項

- ① 資料代、保険代として100円頂戴しています。
- ② 雨天中止。(前夜18:55のNHK天気予報で降水確率50%以上の場合、原則として中止)
- ③ 集合に遅れる時は早めに担当者に連絡し、会場に不慣れな場合は、必要な指示を受けて下さい。
- ④ 帽子、雨具、水筒などは適宜ご持参ください。
- ⑤ 場所や交通手段、便乗の可否などのお問合せは各担当か事務局まで。

「野鳥さが」 ～日本野鳥の会佐賀県支部 会報～
 公益財団法人 日本野鳥の会 〒141-0031 東京都品川区西五反田3-9-23 丸和ビル
 電話 03-5436-2620(代) FAX 03-5436-2636
 日本野鳥の会佐賀県支部 支部長：宮原明幸
 事務局：中村さやか (☎ 0954-60-4424 携帯：080-4932-5740)
 〒849-1315 鹿島市三河内 2974-1
 郵便振替 01710-8-82339 「日本野鳥の会佐賀県支部」